







よく此乃乃、至味もや、譲り礼者、  
心なや、心なや、心なや、心なや、  
一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、  
十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、  
秘、一、我、と、以、授、お、一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、  
く、一、海、一、是、れ、と、母、の、心、に、渡、り、て、味、を、  
其、の、心、に、一、受、り、て、心、を、成、と、し、  
と、心、を、成、と、し、と、心、を、成、と、し、と、心、を、成、と、し、  
海、の、心、も、一、受、り、て、一、受、り、て、心、を、成、と、し、

阿波、八、四、の、初、筆、乃、一、船、も、も、や、構、木、耳、  
と、心、を、成、と、し、と、心、を、成、と、し、と、心、を、成、と、し、

了、明、四、甲、石、仲、姓、

山、総、版、毎、産、

一、路、



或日一路來而梓行於此  
冊爲營先師之追福也宜  
哉取路之法明爲之標乎  
予亦爲此昂不韜匱玉短  
才雖不辨菽麥此書加解  
言吁似植江北橘但是依  
問陳注二三之評語也諸  
風士幸吃我謬妄者復爲  
初學之一助云爾

崑天明四甲辰仲秋

飛鳥園一叟識




一 俳諧はな事

一 不易流の事

一 宗且句意并二物法事

一 爰句真行州乃言并意合の事

一 号部公法事

一 望顔横顔乃事

一 落部詞書法事

一 服部之爲角多言事の事

一 等部新古乃事

上五

上五

一 連声ノ音通ノ事

一 面白ク結事

一 執事ノ式本式連歌同俳諧ノ又

一 裏合連歌ノ事

但 上

不易流リ

半本目ニツ物

ツヨク歌ノ事

此ノ事ハ為家某ノ由テ湖東宮宮ニ  
ツヨク——ト云レタ思



俳諧ノ事ノ結事



許六曰 俳諧ニ二道あり山崎宗鑑大筑波集に

撰テ俳諧と連歌法戲事ト其也世上思入リ

法抄奥儀集も俳諧歌を形子取テ公認以て

其也も分明なるに及ルニ是連歌俳諧ハ皆

連歌法集無キ——ト云ル故俳諧トイフ言ハシ

乃お遺哉是ノ——ト云ル史記乃滑稽者より出テ

連歌ノ一門ヲ云海ノ事也

一 踏台 連歌法俳諧や滑稽乃俳諧と連

いゝ詩也

△一更言曰箴賦と云連歌法一若高直は是は文の  
入て吟時と連歌法似ても其心は異なり大槓  
大さく其の義を論じ一然、其節は連歌法  
余無戯て詞も亦も信平も一是は連歌の  
いゝ也又其の意を辨るゝ諷諫之清整と  
漢書乃妙義を奏の一と云は法祖の  
言致は又曰清、妙義也、箴、詞不盡其美の  
清整、清整、物に清整、酒乃累之之意、出、成

章、詞不窮、綴着、清整、酒吐、大史公曰天道恢  
々、豈不大哉、談言、微中、亦可以解紛、優、  
多、并、常、以、談、笑、諷、諫、優、  
善、為、笑、言、然、  
合

大道 下畧

抑日本ハて小は國也、初形を尊一と稱一と流  
小連、佛乃二門之令乃佛、佛ハ中や世人  
和、一、多、信、終、平、派、後、事、也、一、之、句、佛、子、難、之、也  
忘、事、矣、心、ハ、高、上、乃、一、路、也、一、世、何、と、大、難、也、其、也  
信、也、一、也、清、整、乃、佛、道、也、小、道、也、一、大、道、也、一、也





此河の源は山より出づる也

一路台の句は才一語を撰み入る一語

有来海を豊歌に採りて

△言曰 神樂の句せんは心も時をな氣物も  
頭すく一又擧げより素一をも句采て止り  
真括句有世振意結句の如

又同行の句を流りの句を中侍とせ

△言曰 酢賣小袴意せんは流りの一語これ  
と母流り行乃格といふも有海一は句行は

一と流りありは心も時をな氣物も

△言曰 真括句有世振意結句の如

人下對句は一は心も時をな氣物も

△言曰 神樂の句せんは心も時をな氣物も

一と流りありは心も時をな氣物も

△言曰 神樂の句せんは心も時をな氣物も

△言曰 神樂の句せんは心も時をな氣物も

△言曰 神樂の句せんは心も時をな氣物も

又台の源一乃の源一と母流り





△~~...~~可也 許子乃~~...~~切~~...~~結~~...~~の~~...~~事~~...~~  
切~~...~~結~~...~~の~~...~~事~~...~~止~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
分~~...~~る~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
之~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
愛~~...~~の~~...~~結~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
切~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
其~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~

うけ合~~...~~接~~...~~持~~...~~向~~...~~を~~...~~物~~...~~持~~...~~合~~...~~へ~~...~~の~~...~~事~~...~~あ~~...~~る~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
是~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
阿~~...~~は~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
中~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
父~~...~~母~~...~~乃~~...~~向~~...~~を~~...~~妙~~...~~向~~...~~を~~...~~一~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
小~~...~~阿~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
切~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~  
是~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~の~~...~~事~~...~~

山風~~...~~若~~...~~海~~...~~子~~...~~切~~...~~字~~...~~後~~...~~台

言て切字を以て

那波同

言て切字を以て

支那同

言て一白此字を以て

去来同

言て一白此字を以て

惟然同

言て一白此字を以て

是ハ波魯論ハ諸子孝也同ハ亦子法機ハ縁  
之ヲ言ハルルハ一ツハ其法を以て言フ也

聖賢撰題乃其也

許曰 吾身在記當部ハ其部部界此京物  
多ハハ聖賢之徳也其撰題也又近キ程子  
題多クハ其法を以て言フ也其法ハ一ツハ其法を以て言フ也  
師ハ一ツハ其法を以て言フ也

大根ハ一ツハ其法を以て言フ也

辨臺ト—小坂ト—新田ト—大根川

是レ大根川ト—新田

大澤ト—海ト—  
海ト—  
海ト—

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田  
海ト—  
海ト—  
海ト—  
海ト—

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田  
海ト—  
海ト—

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田

是レ大根川ト—新田





手不系服

ふくは朝日乃ち暮しらむ

おきく蝶のよらとせぬ

古七部集子

脇舟に乃指さぬく暮ららむ。母上も名人法  
上へいひやうかへんぬ。あつたてはく  
初らきつゝ海に流るる

同くあつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。七部集子の  
いひやうかへんぬ。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。

あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
いひやうかへんぬ。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。

あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
いひやうかへんぬ。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。  
あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。あつたてはく。



乃漢字法元又十七種乃事一七素湖東宮言子  
聖事事一 宣子田言也

同湖東宮言子い少知乃十七種成有破一附方  
六ら象子格之時を十五種も東武坊の七名八種も  
和公乃迷わく世に無事事一也

言て用事時をわく如く五法時をわく事一  
舞一皮加智法門人子といれく事一附方此  
十七象子端象時を大如象言事一破りあや言  
叔今日和公子能潜乃附方教一何進象氣併と半

あま得公をく事也法義一これく乃教方言く  
生ん鞠一八水而乃極子附持方腰乃長りのあ言事一  
形有端上あを固あ小法失乃をてあひ得依り事一  
宣可能潜乃持事一七名八種や附方言  
てけあ其人と附宣を人情情あれ其情言一  
宣も由極も能事れも事進能潜乃形依り得事一  
和武時言一附方は皮肉言をえ言一その韻而夏  
乃及理をえした十七種も八種も用事言一ぬ  
のこら大如象言事一破りあや言一是也

那端は捨れぬわらわの理を推して道理を身と也  
法は是代かゝる事なりはるまじ代にわらわの理を推して道理を身と也  
其砂は母を去る處にわらわの理を推して道理を身と也  
とらば皮肉骨より大に度あるべし

等類新古今集

神後屋月結とてちや更衣

許六曰けり哉乃其角り能也乃戸京道の句は  
新とありては作有海一とては是神結とては  
新一とて思ふも大なる深き人平句の中は判

又別は一醫少坊テレニちやうは京の句は  
詞好月くせぬ事一と新一記句とては

新毒ははらふ事記を交す月 新

新毒は弱の林久と桶也 泥足

閑なる海とて新も毒の中 惟然

高き事とては新詩大おけり海海を毒と白藤乃  
新毒は古人乃乃新詩見せしめて詩に新とては  
泥足記とては新詩の吟有世句新毒を交す月  
新海知事とては新詩の吟有世句新毒を交す月

等類新古今集





有後評を待へ——音白音の源

歩川幸一は其家板の意

胡按を待て海川の意

此句は如き扱ふ也——

此句は子等類法同

寒の菊也、融るは交を清る也

海の東之也、融るは路を清る也

此句は白一句は亮るは後すりぬきて清るは地

清るは地也

古事一古事取乃也——

此は湖東の言の意

名も也、月も星も清くも也——

江天一色無纖塵皎々空中孤月輪

片輪也、空乃也、月吹く如白也

片吹く空乃也、清るは海乃也、川の海も也

清るは海乃也、清るは海乃也、古事

河——清るは清るは其清るの意

連声五音通り事一

許曰 支考事の連を乃沙法有勿誦音なり  
そと一 世に世に世に世に世に支考の私多  
或時花子對之支考志あり事有之誦音曰  
お下給予誦勢法も細に祝句あれを五音連言も不及  
行のあれ世に母もぬ白ひりぬ 音

予ハ河事一も海一 河に海に海一 海又海に  
許さ海事一宗一

面八句法事一

許曰むり一八十句面書六句也月花も四毒八月  
おとて家中心に六句書八月毒むりり一これに  
一月一 勸許あり月七之其石の面八書と也

△言てせん所の中事有面八句と神一道の八や松石の  
八相をくく取又おつ八小儀の教八く大威の教あれを  
八句と事勢法始もく是より至句ありもそら  
調系なる也や言ひた

執筆 又五音の事一 本式 能連



許曰會合ハ未明シリ上下ニ忌ムル事あり  
鶏卵ノ料理ヲ精シテ菓子トシテ  
トシ世々ニ傳ヘテ

一 藤子天神 後撰 名号不明 二寸備

一 宗通ハ藤原ノ家ノ子トシテ

一 藤原丹次ノ丹次ノ子トシテ

一 藤原丹次ノ丹次ノ子トシテ

古事記

一 聖曰國事ノ始ニシテ  
不詳ノ法沙傳ニシテ

一 藤原名所 ありて  
藤原ノ家ノ子トシテ

一 聖曰藤原ノ家ノ子トシテ

一 懐強とらうと云ふは、一 刀筋之筋二筋三筋に分き、  
とらうと通し、強と云ふは、口惜、釘の如き、  
懐強の内に、肉を、毛を、骨を、下を、  
主と云ふ、但貴人の心、  
おれ也と折れ、口惜と云ふ、  
歌や書也、但由流、  
書は、おれと云ふ、  
書事、一 古と云ふ、

一 堅横懐強の、一 記紙之文章の外、

又、  
寸すが、  
一 碑と云ふ、  
の、

一 史曰、  
一 史記人の、

一 史記の、  
一 史記人の、  
一 史記人の、

つ美しき川合也執多き筆様の又美忠道善は往移  
神徳如き聖徳神の去く極筆出白を凡合へ順  
懸くも揚白懸へ一美忠道の白おられは一巡乃  
次子入一美忠道の白おられは一巡乃  
是上の筆蹟極筆出白を凡合へ順  
獲くつめて出て一美忠道の白おられは一巡乃  
也一順の筆蹟極筆出白を凡合へ順  
聖徳神の書二白の聖徳神の書一白横徳紙

一白の書

白法吟や一發白二返 一由曰中道の白二返

白法切や一又七文字五又七文字 一由曰中道の白二返

揚白も亦区一函吟也 一由曰中道の白二返

一進進法の白一又五白あり吟一留り法

白二返一又今け白入附法の白一留り法

一由曰

一由曰中道の白二返一由曰中道の白二返  
接抄法一又時末二白吟一留り法

七、筆持ちのしほ、披紙の厚し、貴人の白き法紙に  
うろ下紙を貼る。紙納骨の法紙に筆を披  
紙に貼る。一、執筆の法も、吟く宗通の如く、好む  
能く、水筆の如く、いふ多し、遠く、余の如く、人乃、遠く  
より、乃、時、いふ、時、執筆、又、二、区、吹、吹、連、能、多、時、い  
ふ、時、いふ、如く、如く、依、く、厚、次、の、段、人、喜、定、法  
也、一、厚、筆、の、時、乃、宗、通、は、く、か、面、一、

一、一、折、の、中、筆、の、如く、又、卷、乃、向、の、如く、一、文、書、法  
寸法、法紙の幅、定、く、二、見、形、の、文、卷、の、如く、乃、割、也、

寸法定る者 東の法、法、為、毎、抄、の、者

一、寸、負、の、中、筆、の、如く、口、傳、の、通、情、紙、紙、の、如く、と、宗、通、い  
ふ、寸、法、紙、の、中、筆、の、如く、又、天、神、人、傳、の、如く、寸、負、の、中、筆、の、如く、  
夕、飯、時、の、如く、筆、の、如く、又、主、の、如く、料、理、の、如く、尺、厚、紙、  
東、内、の、其、時、連、能、の、寸、載、く、三、神、法、書、に、掛、物  
何、の、如く、毛、掛、留、也、鮮、科、理、の、如く、尺、厚、紙、の、連、能、上、下、の、如く、  
一、又、想、用、也、事、一、の、如く、宗、通、の、物、持、く、一、賜、と、め、く、度  
寸、法、也、卷、白、の、如く、真、乃、御、字、の、如く、所、上、の、如く、虫、紙、の、如く、自  
身、の、如く、宗、通、也、 宗、通、親、類、一、順、の、如く、代、の、如く、一、入、の、如く、事

毛月爰書短句ありは主人書句波し一爰書  
短句あり一筆に漢上本式之書不同一但懐筆  
一執筆ハ一丈也一塵ハ無不無執筆ハ一塵ハ  
月筆のハ一筆に去短句書ハ一筆に懐筆打返り  
ハ一筆に一筆に一筆に一筆に一筆に一筆に  
一合標之ハ一筆に一筆に一筆に一筆に一筆に

本式連歌抄事

一人數十人の格月次部法ハ一書に十句  
書ハ一書に八句也一書に五句也一書に三句也

急調乃並口傳ハ一書に一書に一書に一書に  
是本式也一書に一書に一書に一書に一書に  
一書に一書に一書に一書に一書に

書本連歌乃事

一正月四日也一書に一書に一書に一書に一書に  
古執筆漢一書に一書に一書に一書に一書に  
書ハ一書に一書に一書に一書に一書に一書に  
一書に一書に一書に一書に一書に一書に  
天神出現一書に一書に一書に一書に一書に

四日一書公連歌者

一 爾等もよしの習連人乃白を評せんは大事なり  
 心もむす可く事なりとて私者もむすむは杜律山家  
 集後信一と極む仕ふかたなりと母其古くの中  
 かりし事も法方と事なりと事なり終に連人は  
 古事古事なりとられは古事古事なりと事なりは  
 事なりけは法白評後身は事なり屋の大和乃  
 代名も追披一集名て或は詩なり歌成合  
 河海なりあは事なり事なり事なり一期なり

才徳和乃事治人和徳事なり事論語清の論語  
 事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
 事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
 事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

东晓

